for Happy
Gardening Life

Do-Ga

"Do-Ga" enhances the love of your garden and the quality time with your family.

屋外用携帯石油バーナー GT-500G

Kusayaki

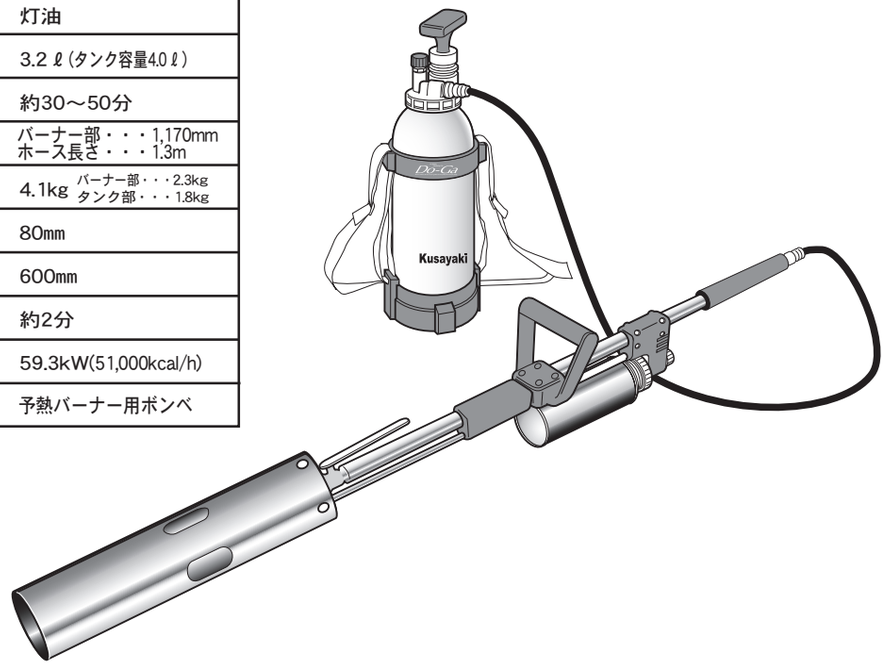
取扱説明書

〈生産物賠償責任保険付・保証書付〉

このたびは屋外用携帯石油バーナー
「**Kusayaki** GT-500G」をお買い上げ
いただき誠にありがとうございました。

■仕様

型　番	GT-500G
使用燃料	灯油
容量	3.2ℓ(タンク容量4.0ℓ)
連続燃焼可能時間	約30～50分
外形寸法	バーナー部・・・1,170mm ホース長さ・・・1.3m
重量	4.1kg バーナー部・・・2.3kg タンク部・・・1.8kg
火炎直径	80mm
火炎長さ	600mm
予熱時間	約2分
発熱量	59.3kW(51,000kcal/h)
付属品	予熱バーナー用ボンベ



屋外専用

⚠注意

正しくご使用していただくため
ご使用前に必ずこの取扱説明書
をお読みください。またお読み
いただいた後も大切に保管して
ください。

目次

特に注意していただきたいこと・・・1～2
使用する場所/部品交換のしかた　・・2
各部の名称／仕様　・・・・3
使用方法　・・・・4～7
日常の点検・手入・保管　・・・・8
故障・異常の見分け方と処置方法・・8
アフターサービス　・・・・9

◆特に注意していただきたいこと

イラストの横にある⃠マークは「禁止」❗マークは「強制」⚠マークは「注意」を表しています。

⚠危険（取扱を誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う危険が切迫して生じることが想定されることを示します。）

■ガソリンの使用厳禁

燃料は必ず灯油を使用してください。ガソリンなど揮発性の高い油は絶対使用しないでください。火災の原因になります。

⚠警告（取扱を誤った場合、使用者が死亡又は重傷を負う可能性が想定されることを示します。）

■可燃物の近くでの使用禁止

火気厳禁の場所、家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板などの燃えやすいもののそばでは火災の原因になりますので絶対に使用しないでください。

■給油は消火してから

給油は必ず消火してから行ってください。火をつけたまま給油すると火災のおそれがあります。

■タンクの温度上昇に注意

給油後タンクの温度が上昇すると、タンク内の灯油が膨張し、タンクが破裂するおそれがありますので以下のような行為は禁止します。

・ストーブなど熱気のあたる所や直射日光の当たる場所に放置する。
※特に自動車内は温度が非常に上昇しますので注意してください。
・気温が40℃以上になるような場所に保管する。

⚠注意（取扱を誤った場合、使用者が傷害を負う危険、及び物的損害のみの発生が想定されることを示します。）

■火傷に注意

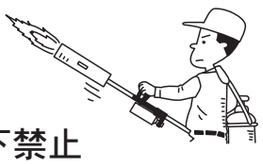
燃焼中や消火直後は火口等の高温部に手などふれないように注意してください。やけどをするおそれがあります。

■異常時使用禁止

異臭、ススの発生、炎の色など普段と異なる異常燃焼を起こしたときは使用しないでください。緊急の場合でもあわてずにレバーを閉じ消火してください。

■上向け使用禁止

上に向けて使用しないでください。



■落下禁止

●両手でグリップとハンドルをしっかりと持って作業してください。予想しない事故が発生するおそれがあります。

●ホースを引っ張ってタンクを移動させたり、持ち上げたりするなどホースに荷重がかかるような使い方はしないでください。

◆特に注意していただきたいこと

⚠警告　火災に注意

■消火を確認

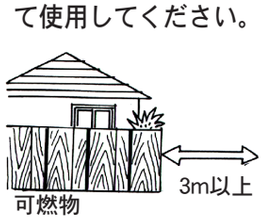
使用後は、必ず石油バーナーや燃やしたものの消火を確認してください。必ず水をかけ、火だねが残っていないことを確認してください。

●風が強いとき、火災の発生の恐れのある場合は使用しないでください。

●使用の際は消火用の水、又は消火器等を準備してください。
●消火後、時間をおいてから再度消火を確認してください。
●燃えやすいもの、燃やしてはならない物、場所にはあらかじめ水をかけておいてください。
●植木など生木でも燃えることがありますので十分注意してください。
●火災は思いもかけぬことから発生することがありますので十分注意してください。

◆使用する場所 —— 安全に使用するために ——

●火気厳禁の場所や可燃物(家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板など)、からは3m以上離れて使用してください。

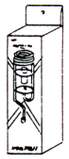


●家屋、板べい、かやぶき屋根、はめ板など燃えやすいものの近くでは使用しないでください。

●可燃性ガスの発生しない場所またはたまらない場所で使用してください。また可燃性ガスが発生するものを使用しないでください。
●必ず屋外で使用してください。
●使用の際は、まわりに人や動物がいないことを確かめてください。
●お子様には絶対使わせないようにしてください。またお子様の手の届かない場所に保管してください。
●使用の際は、作業しやすい靴と衣類を着用してください。

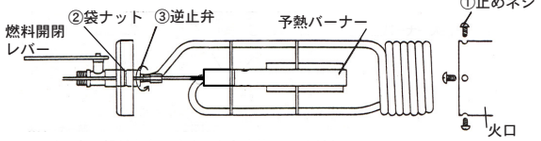
◆部品交換のしかた

気化器(予熱パイプ)、Oリングは消耗品です。 破損した場合は別売の交換用部品(右図)と早めに交換してください。


・交換用気化器 KY-05

・交換用Oリング GT-5001

●気化器(予熱パイプ)の交換方法

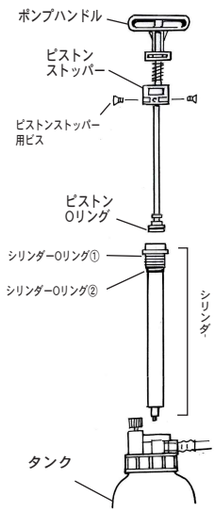


※バーナー部が完全に冷めてから交換してください。

1.タンク内の圧力を抜いて、燃料開閉レバーが閉まっていることを確認します。
2.①止めネジ4本を取り、火口を取り外します。
3.③逆止弁をスパナ、モンキー等で固定し、別のスパナ、モンキー等で②袋ナットを矢印方向に回してはずします。気化器(予熱パイプ)がはずれます。
4.新しい気化器(予熱パイプ)を逆の手順で図のような向きに組み付けます。

●Oリングの交換方法

1.ポンプハンドルを左へ回しゆるめ、ポンプを燃料タンクから引き抜きます。
2.ピストンストッパー用ビス(2本)を外します。
3.ポンプハンドルを持ちシリンダーよりピストンを引き抜きます。
4.ピストンOリングを交換します。
※小さいㇾドライバーなどを使用してください。
5.ピストンをシリンダーに入れます。
6.2.と逆の手順でシリンダー上部をピストンストッパー用ビス(2本)で固定します。
7.シリンダーOリング①、②を交換します。
8.ポンプを燃料タンクに入れシリンダーをポンプハンドルで止まるよりややきつく締めます。
※ピストンOリングが乾燥しているとピストンを押しても抵抗がなく、加圧できないことがあります。この様な時は油(機械油等、てんぷら油でも可)を湿らします。



交換の際の注意

1.Oリングの交換は本体が完全に冷めてから行ってください。
2.Oリングの交換後、灯油漏れ等がないことを確認してください。
3.Oリングの交換の際は、Oリング・器具にキズを付けないように注意してください。

◆ アフターサービス

アフターサービスを依頼する前に「故障・異常の見分け方と処置方法」を見てもう一度確認してください。確認の上ご不明な場合は、ご自分で修理なさらず、お買い求めになった販売店または当社「お客様係」 0120-75-5000までご相談ください。

Do-Ga Kusayaki GT-500G 保証書

この製品は万全を期していますが正しい使用にもかかわらず万一故障した場合は本保証書に製造番号、お買上げ年月日、販売店名、ご芳名、ご住所、お電話番号および症状をお書き添えのうえ、お買上げの販売店に修理をご依頼ください。

製品名・型式	Kusayaki GT-500G	ご芳名
製造番号		ご住所
保証期間	お買上げ日より1年間	
お買上げ日	年　月　日	お電話番号　（　）

取扱販売店・住所・電話番号	症状

新富士バーナー株式会社

品質保証規定

※この保証規定は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
1.保証期間内に、取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意に従った正常なる使用状態において、万一故障した場合には、無料で修理いたします。
2.修理依頼時には、つぎの事項にご注意ください。
・必ず商品と本保証書をご提示ください。
・保証期間を過ぎた修理依頼も商品と本保証書をご提示ください。
・商品と本保証書の提示のない場合は、修理をお断りすることがあります。
・ご贈答品等で本保証書にお買い上げ販売店に修理がご依頼できない場合には、当社「お客様係」 0120-75-5000までご連絡ください。
3.保証期間内でも、つぎの場合は有料修理になります。
・火口、ノズル、気化器(予熱パイプ)、Oリング類等の消耗品の交換。
・使用上の誤り、不当な修理や改造による故障及び損傷。
・お買い上げ後の落下、移動、輸送等による故障及び損傷。
・火災、地震、水害、落雷、塩害、弊社指定以外の燃料使用によるもの、その他、天災地変、公害による故障及び損傷。
・保証書の提示がない場合。
・本保証書の所定事項の未記入、あるいは字句を書き換えられた場合。
4.本保証書は、日本国内においてのみ有効です。
5.本保証書は再発行しませんので紛失しないよう大切に保管してください。

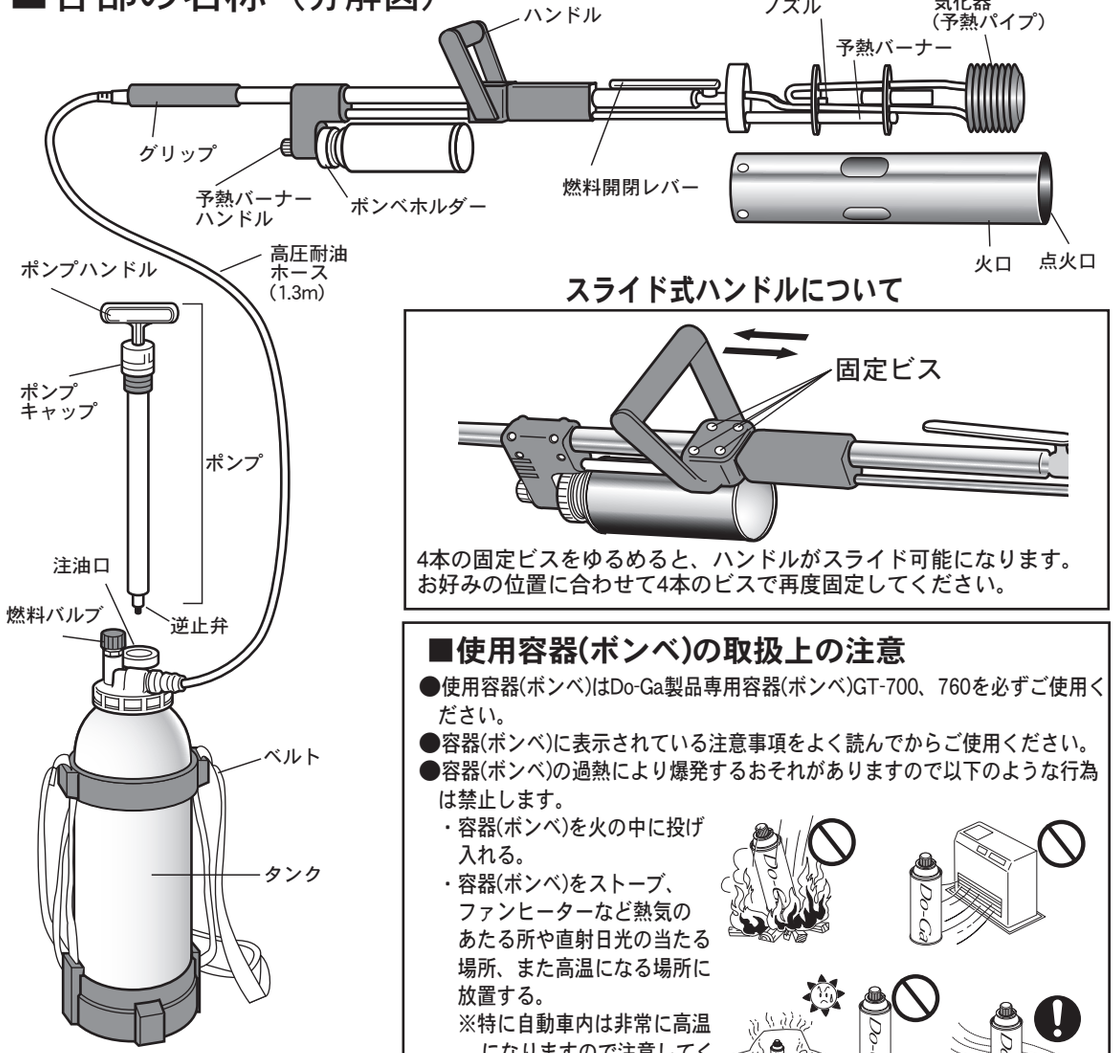
for Happy Gardening Life
Do-Ga
"Do-Ga" enhances the love of your garden and the quality time with your family.

製造発売元
新富士バーナー株式会社
〒441-0314
愛知県豊川市御津町御幸浜1号地1-3
TEL0533-75-5000(代)　FAX0533-75-5033
http：//www.shinfuji.co.jp/
E-mail：info@shinfuji.co.jp

MADE IN JAPAN
2013.2

◆ 各部の名称/仕様

■各部の名称（分解図）

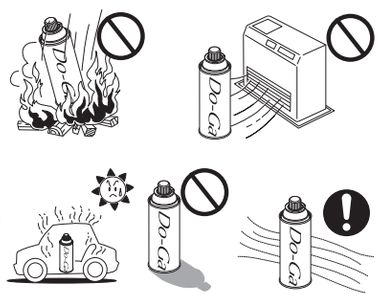


スライド式ハンドルについて

4本の固定ビスをゆるめると、ハンドルがスライド可能になります。
お好みの位置に合わせて4本のビスで再度固定してください。

■使用容器(ボンベ)の取扱上の注意

- ●使用容器(ボンベ)はDo-Ga製品専用容器(ボンベ)GT-700、760を必ずご使用ください。
- ●容器(ボンベ)に表示されている注意事項をよく読んでからご使用ください。
- ●容器(ボンベ)の過熱により爆発するおそれがありますので以下のような行為は禁止します。
  - ・容器(ボンベ)を火の中に投げ入れる。
  - ・容器(ボンベ)をストーブ、ファンヒーターなど熱気のあたる所や直射日光の当たる場所、また高温になる場所に放置する。
    ※特に自動車内は非常に高温になりますので注意してください。
  - ・容器(ボンベ)が40℃以上になる場所で使用する。



- ●使用しない時は、容器(ボンベ)は40℃以下の湿度の少ない場所にキャップをして保管してください。また容器(ボンベ)はときどき点検して錆が発生している場合にはできるだけ早く使用してください。
- ●容器(ボンベ)に強い衝撃をあたえないでください。

■使用済み容器(ボンベ)の処理に関する注意

- ●容器(ボンベ)を振ってサラサラと音がする場合はまだガスが残っています。そのまま温度の高い所に放置したり、火の中に投入すると爆発する危険があります。
- ●容器(ボンベ)は完全に使いきってから他のゴミと区別して捨ててください。（各自治体の処理方法に従って捨ててください。）

上手な雑草の焼却方法

- ●雑草は生えはじめに焼き払うのが最も効果的で簡単です。また焼くことにより害虫退治、土壌の殺虫、殺菌、活性化、雑草の種・毛根の焼却など様々な効果があります。
- ●長く伸びきってしまった青草を焼く場合は一度に焼ききろうとせず、ゆっくり歩くぐらいの速度で一度簡単に焼いてください。2~3日後、青草は枯れています。さらにもう一度枯れたものを焼却すれば効率よく処理できます。

◆ 日常の点検・手入れ・保管

■点検・手入れの際の注意

- ●日常の点検、手入れは必ず行ってください。
- ●点検、手入れは消火し、必ずバーナー部が完全に冷めてから行ってください。
- ●故障または損傷したと思われるものは絶対使用しないでください。
- ●不完全な修理は危険です。万一具合が悪くなって処理に困るような場合は、お買い求めになった販売店または、当社「お客様係」フリーダイヤル 0120-75-5000までご相談ください。

■点検・手入れ方法

- ●各部に油もれ、油のにじみがないか確認してください。
- ●タンクに油もれ、エアもれがある場合はOリングを交換してください。（交換方法は2ページ参照）
- ●気化器(予熱パイプ)は消耗品です。使用前に灯油がノズル以外の気化器からにじみ出る場合、また燃焼中青色の火炎の中に赤い炎が出るような場合は、気化器が部分的に穴があき破損したと思われます。このような時は新しい気化器と交換してください。（交換方法は2ページを参照）

■保管

- ●使用後は必ず灯油を抜きとって保管してください。
- ●お子様の手の届かない場所に保管してください。
- ●直射日光の当たる場所に放置したり、雨ざらしにしないでください。
- ●転倒・落下させないでください。

※タンクの耐用年数は使用開始から約8年です。約8年過ぎた場合は使用しないでください。またタンクに腐食、へこみ、穴など異常のある場合は使用しないでください。

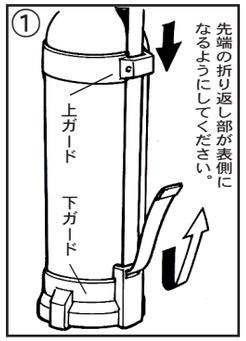
◆ 故障・異常の見分け方と処置方法

※生火・・・灯油が気化されずに液体のまま噴射し、赤く燃え上がる状態

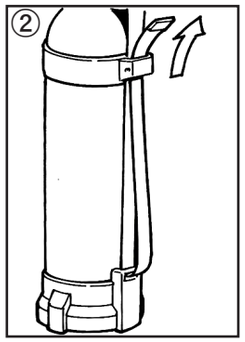
現象 / 原因	燃焼中火炎が小さくなる	火炎がいきつきして安定しない	使用中に火が消える	灯油がノズルから噴出しない	※生火が出る	タンクに加圧できない	処置方法
予熱が不十分である					○		予熱を最初からやり直す
タンク内の圧力が低い	○	○		○			加圧ポンプによって加圧操作をする
燃料が不足している	○		○				消火してから燃料を補給する
圧力のかけすぎ					○		ポンプキャップをゆるめタンク内の圧力を抜き再び予熱を最初から行う
急激な加圧		○			○		ポンプキャップをゆるめタンク内の圧力を抜く
焼却時に出る煙を吸い込んだことによる酸欠			○				火口を焼却物から離して追い風になるように使用する
ピストンOリングが乾燥又は破損している						○	ピストンOリングに油をつける。それでも加圧できない時は新しいピストンOリングと交換する。
気化器が破損している					○		新しい気化器と交換する
変質した灯油、汚れた灯油、水の混ざった灯油を使用している			○				変質した灯油、汚れた灯油、水の混ざった灯油は使用しない。灯油の保管状態に注意する。

◆ 使用方法

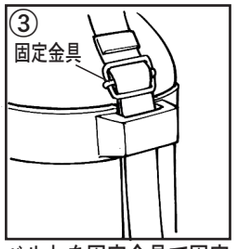
1.ベルトの取付け方法



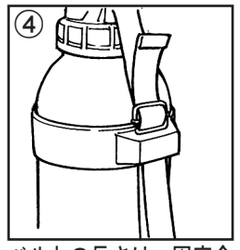
ベルトを上ガード、下ガードの穴に図のように通します。



ベルトを再度上ガードの穴に通します。



ベルトを固定金具で固定します。

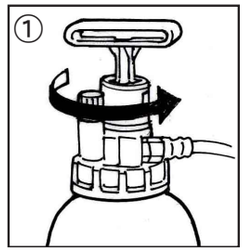


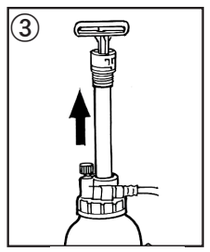
ベルトの長さは、固定金具を使って調節します。

※ベルトが固定金具でしっかり固定されていることを確認してください。

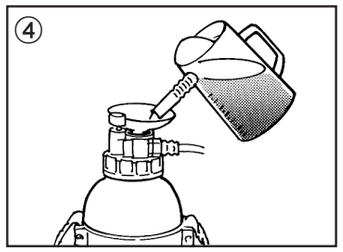
2.給油 ※燃料開閉レバー及び燃料バルブが閉じていることを確認してください。

・燃料は、灯油(JIS1号灯油)を必ず使用してください。
・変質灯油、汚れた灯油、水の混ざっている灯油などは絶対使用しないでください。
・灯油は必ず、火気、雨水、ごみ、高温及び直射日光を避けた場所に保管してください。

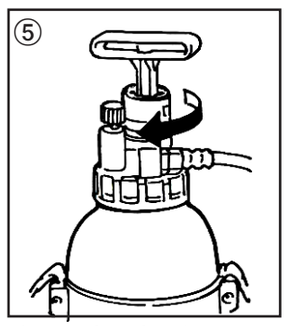




ポンプハンドルを左へ回しゆるめ、ポンプハンドルを下に押し込み右方向へ90°回してロックした状態でポンプを抜きとります。
※この時抜きとったポンプはゴミ等の付く場所に置かないでください。ゴミ等がタンクに入ると故障の原因となります。



タンクに灯油を3.2ℓ入れます。
※タンク容量は4ℓですが、空気室を確保するため燃料は3.2ℓ以上入れないでください。



給油後ポンプを差し込んでポンプハンドルを右へ回し、ポンプキャップを止まる程度よりややきつめに締めます。

⚠警告

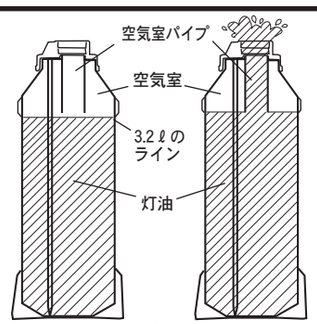
灯油の入れ過ぎに注意

灯油は3.2ℓ以上入れないでください。入れ過ぎるとタンクの温度上昇により破裂する恐れがあります。

⚠注意

灯油のもれに注意

給油時灯油がこぼれた場合は布等でよく拭きとってください。給油後灯油のもれのないことを確認してください。

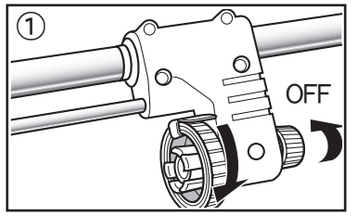


灯油を入れすぎると右上図のように注油口から灯油があふれ出る構造になっています。

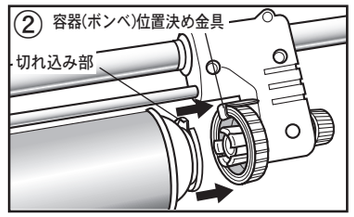
3.予熱の準備

本製品を正常な火炎で使用するために「予熱作業」が必要です。本製品を使用する際は毎回必ず「予熱作業」を行ってください。「予熱」とは灯油を気化させて燃焼させるため気化器をあらかじめ加熱する作業のことです。

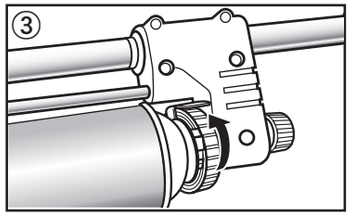
■容器(ボンベ)の取り付け



周囲に火気などのないことを確認します。予熱バーナーハンドルをOFFの方向へ回し、完全に閉じていることを確認します。ボンベホルダーをOPEN(右)の方向へ止まるまで回します。

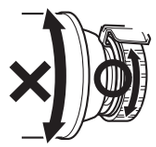


容器(ボンベ)の切れ込み部に 容器(ボンベ)位置決め金具が入るよう 容器(ボンベ)のカップをボンベホルダーの三つ爪に押し込みます。
※容器(ボンベ)の切れ込み部に容器(ボンベ)位置決め金具が確実に入っているか確認してください。



ボンベホルダーをCLOSE(左)の方向へ止まるまで回し、容器(ボンベ)を固定します。

⚠注意 容器(ボンベ)を回しての着脱禁止

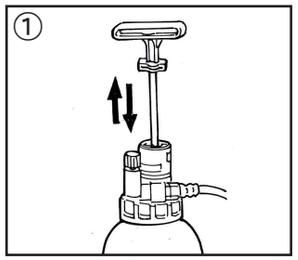


容器(ボンベ)の取り付け、取り外しは必ずボンベホルダーを回して行ってください。容器(ボンベ)を無理に回して取り付けたり取り外したりすると容器(ボンベ)位置決め金具が破損するおそれがありますのでおやめください。

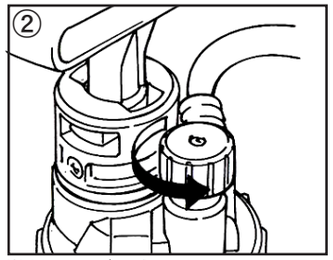
⚠警告 ガス漏れに注意

ガス漏れに注意してください。容器(ボンベ)取り付け後、”シュー”というガス漏れの音やガスの臭気がする時は、容器(ボンベ)が正しく取り付けられていませんので、もう一度注意して確実に取り付けてください。それでも”シュー”という音が消えないときはガス漏れのおそれがありますので、使用を中止して点検・修理を依頼してください。

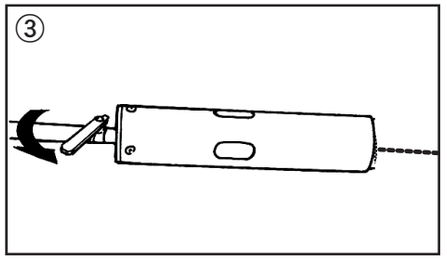
■点火の前に気化器の中に灯油を満たすため、灯油をノズルから少し出します。



タンクを地面に置き、タンクに加圧されていない状態からポンプを3~5回押し圧力を加えます。



燃料バルブを左へ止まるまで回し全開にします。



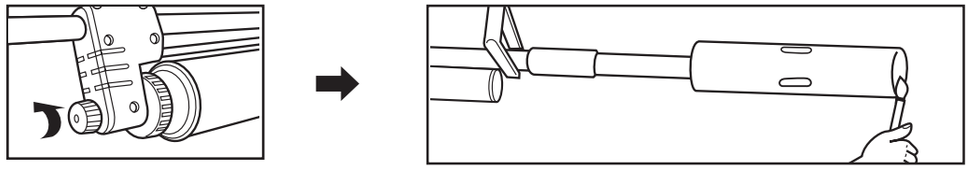
燃料開閉レバーを開きノズルから灯油を少し出します。レバーはその後閉じます。

⚠危険 加圧後の灯油もれに注意

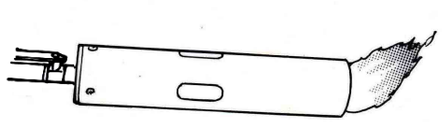
圧力を加えた後タンクとホース等の各つぎ目、またバルブやポンプの取付部等から灯油のもれ、にじみがないことを必ず確認してください。灯油のもれ、にじみがある場合は絶対に使用しないでください。使用中もときどき灯油のもれがないことを確認してください。

◆ 使用方法

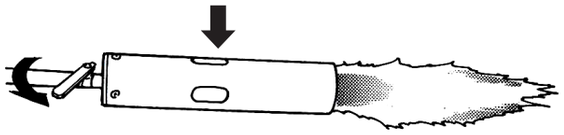
4.予熱の開始(点火)



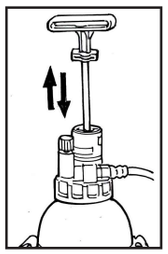
予熱バーナーハンドルを開き、予熱バーナー点火口よりライター等で点火します。



そのままの状態で約2分間静かに予熱します。



予熱開始から約2分後「ゴー」という音とともに火炎が噴射してきたら燃料開閉レバーをゆっくりと開きます。予熱バーナーハンドルを閉じます。



初期加圧(ポンピング)
約20回ゆっくり押す

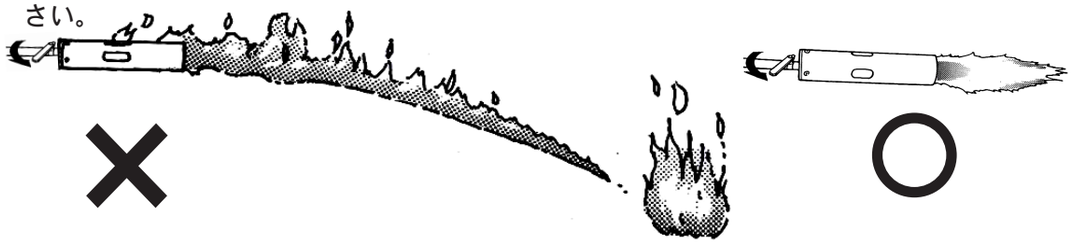
生火(灯油が気化されずに液体のまま噴射し赤く燃え上がること)が出ないことを確かめてからタンクを地面に置き、初期加圧(ポンピング)としてポンプを約20回ゆっくりと押しタンクに圧力を加えます。

※生火が出る場合は予熱不十分です。燃料開閉レバーを閉じ、予熱を最初からやり直してください。

予熱はグリップ側を少し高くして図のような状態で行います。

⚠警告　生火に注意

予熱不十分のまま燃料開閉レバーを開くと生火が大きく燃え上がったり生火が5～10m飛び出していくことがあり非常に危険です。予熱を十分行ってから燃料開閉レバーを開いてください。



5.火力調整

火力調整は燃料開閉レバーではなく、加圧(ポンピング)の回数によって火力を見ながら行います。

※必要以上に圧力を加えると燃料の消費が早くなるばかりでなく生火になることがあります。またタンクが破裂する恐れがありますので必要以上に圧力を加えないでください。また圧力が低下すると火力が弱くなりますので火力を見ながら約5分おきに約20回を目安に加圧(ポンピング)を行ってください。

※加圧(ポンピング)後は必ずポンプハンドルをロックしてください。

※一度に30回以上の加圧(ポンピング)はタンク内の圧力が必要以上に高くなり危険ですのでおやめください。

加圧(ポンピング)は
約5分おきに約20回を目安に

使い始めの燃料の量が約1.6ℓ以下(タンクの約半分以下)で使う際は、予熱完了後の初期加圧(ポンピング)は空気室が広いため約50回を上限として行ってください。その後は約5分おきに約20回加圧(ポンピング)を行ってください。

6.緊急時の消火

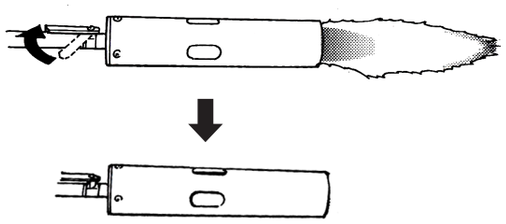
緊急の場合は、燃料開閉レバーを閉じバーナー部を水中につけるか、又消火器を使って消火します。

⚠注意

消火用の水、又は消火器を必ず準備してから使用してください。

7.消火

燃料開閉レバーを閉じます。気化器(予熱パイプ)内に気化ガスが残っているため、火はすぐには消えませんが次第に消えてゆきます。



8.収納・保管

1.使用後は完全に消火したことを確認後ポンプハンドルを左へ回しゆるめ、タンク内のエアー(圧力)を抜き、残った灯油も必ず抜き再度ポンプハンドルを締めます。

※この作業は燃料タンクをすべらない水平な地面に置き直立状態で行ってください。また霧状の灯油が吹き出ることがあるので、周囲に火気のないことを必ず確認してください。

※またエアー(圧力)を抜く際、ポンプハンドルを左へゆっくり回し一度「シュー」と音がしたら一旦止め、音がしなくなったら再度ポンプハンドルを左へ回しゆるめてください。

2.バーナー部が十分冷めてから直射日光、雨、湿気、ほこり等のない所に保管してください。

⚠注意

灯油を入れたまま保管すると灯油の変質、器具の故障の原因になりますので使用後は必ず灯油を抜き取って保管してください。